

Ongoing小川の東南アジアリサーチ旅行記

Art Center Ongoingの小川が東南アジアのアートスペースを旅します

CALENDAR

S M T W T F S 1 2 3 4 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 << March 2017 >>

ARCHIVES

- June 2016 (9)
- May 2016 (5)
- April 2016 (11)
- March 2016 (9)
- February 2016 (11)
- January 2016 (10)

MOBILE



<< おはなちします 2016年2月11日 | main | 静かなる実力者たち 2016 <u>年2月15日(Forum Lengteng) >></u>

2016.03.15 Tuesday

author: ogawanozomu

本について思うこと 2016年2月13日 (C20 library & collabtive、WAFT-LAB)

おはにょうございます。

旅する39歳、Art Center Ongoingの小川です。

インドネシアの最大の難関、ジョグジャをクリヤーしてすっかり惚けていまし たが、インドネシア編はまだまだ続くのでした、いけねっ。

ではいってみよ!

本日は長らくお世話になった愛するジョグジャを後にし、スラバヤへと向かい ます。ばさら、ジョグジャ!!

飛行機のったらあっという間にスラバヤ到着。タクシー乗って目的地へ。 やってきました、ここは『C2O library & collabtive,』。



お話を聞かせてくれたのはプログラムマネージャーのErlin Goentoroさん。 C2Oはファウンダーであるkathleen azaliさんが2008年に設立。ライブラリ 一、ショップ、ギャラリー、レジデンスを併設したスペースです。ライブラリ ーという言葉がスペース名にがっつり入っていることからも推測できるよう に、歴史やアーカイブに焦点を置いています。入ってまず圧倒されるのはずら りと並んだ本の数々。設立当初はkathleenさん個人の本からはじまり、現在 はドネーション (寄付の本) なども加わって、壮大なコレクションになってい ます。C2Oにはメンバーシップがあり、入会するとこれらの本を借りること もできます。おらの敬愛する手塚治虫大先生のブッタなんかもコレクションに ありましたよん。

びっしりと本棚。いいですね。

SEARCH THIS SITE.

Search

SELECTED ENTRIES

• 本について思うこと 2016年 2月13日 (C20 library & collabtive、WAFT-LAB) (03/15)

RECENT COMMENT

- 美術館の後に 2016年3月12 ☐ (POST-MUSEUM)
 - ⇒ おがわ (05/07)
- 美術館の後に 2016年3月12 ∃ (POST-MUSEUM)
 - ⇒ なかざき (05/02)

LINKS

- 無料ブログ JUGEM
- <u>有料ブログ JUGEM PLUS</u>
- JUGEMレビュー
- ブックレビュー
- 写真共有
- 通販

PROFILE

ogawanozomu

OTHERS

- 管理者ページ
- RSS1.0
- Atom0.3





東南アジアにきて感じることの一つに本の存在感があります。ここC2Oもそ うですが、ライブラリーがスペースの重要な位置を占めていることも多く、そ こでしか読めない本や手に入らない本みたいなことがよくあるみたいなんで す。アマゾン全盛の日本では(世界中そうなりつつありますが)、どんな本で も、いつでも、どこでも、ネットさえあれば手に入るみたいな感覚になってし まい、本や図書館に対してのありがたみが完全に失われつつありますよね。も ちろん日本にも古本屋とかありますし、一概には言えないかもしれませんが、 ただ古本屋であってもブックオフが幅を利かせていたりして、大量消費感は否 めません。それに対し、東南アジアでは本にたいしてのプライオリティーがめ ちゃくちゃ高い。一冊の本との出会いをとても大切にしていて、本それ自体も 大切に扱っている印象を受けます。東京には巨大な本屋さんや巨大な図書館が いたるところにあるから、個人ライブラリーをスペースの機能として前面に出 していくことに疑問を持つ人もいるかもしれませんが、こちらでは本というも のがとてもとても重要な位置を占めているのです。ほとんど誰の手にも取られ たことのない本が大量にならぶ無味乾燥とした本棚と、ひとつひとつに深い思 い入れや思い出が染み付いていてさらにそれらをきちんと説明してくれる人が すぐそばにいる本棚。どちらに魅力を感じるのかは、いずれにせよ一冊の本を 読むその人次第なのかもしれませんが。

さてさて、またC2Oにもどって、こちらではスペースの外でのプロジェクトもたくさんやっていて、なかにはスラバヤの街歩きイベント『SURABAYA JOHNNY WALKER』なんてのもあります。こちらお酒からつけたネーミングかと思いきや、「SURABAYA JOHNNY」という有名な民謡があるとのこと。他にも音楽ライブやトークイベント、また一般の人々が参加できるワークショップやコミニティーベースのプロジェクトなんかも多数手がけていて、スラバヤという地域に根ざしたアートスペースの感じがひしひしと伝わってきました。運営メンバーのほとんどがボランティアで関わっているそうで、こういう文化の香りがするアートスペースをみんなで大切にしながら存続させているのって、とってもいいなあとしみじみ感じるのでした。



レアな本が手に入るショップもあります。



スタッフの皆さん。右から2番目がErlin Goentoroさん。一番左はキュレータのAyosさん。なんと彼は、このあとOngoingに遊びにいってくれたようです。



そしてファウンダーのkathleenさんも帰り際にお会いできたのでパチリ。いいお仕事されてますね~。リスペクトです!



重みのあるたくさんの本に触れてみる http://c2o-library.net/ https://www.facebook.com/c2o.library/?fref=ts

おっつ、スラバヤ来たからにはもう一箇所行くよん。

C2Oを後にして、お次に向かうのは『WAFT-LAB』。こちらはジョグジャの <u>『LIFEPATCH』</u>とも親交の深いテクノロジー系のグループです。

案内してくれたのは、メンバーでデザイナーのDebrina Tedjawidjajaさん。



『WAFT-LAB』のスタジオを見学しながらその成り立ちを話してくれました。

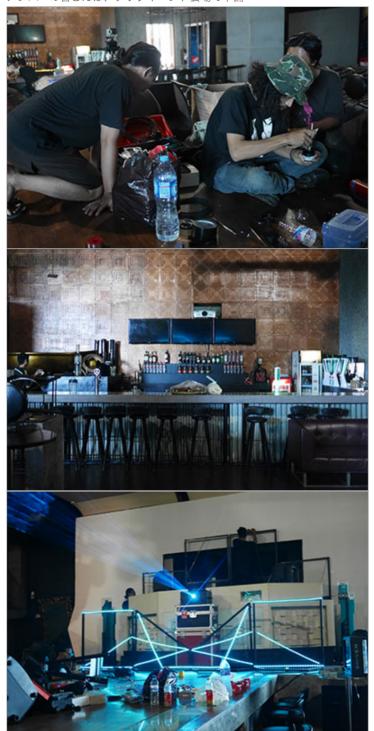
スタジオの中



スタジオの屋上でっす。ここで音楽イベントなんかもやっていたそう。



『WAFT-LAB』は、2005年に倉庫をつかって開催されたプロモーションイベントにおいて活動を開始し、その後、自分たちでさまざまなイベントを主催。 2011年にNPO化し、2012年からはワークショップやセミナー、トークなども開催しています。活動の多くは、メディアアートやwebベースのもので、ワークショップもそうしたテクノロジーを用いたものを積極的に行っているそうです。外部とのコラボレーションなども多く行っているようで、訪れた日は、インドネシアのタバコ会社とタイアップしたクラブイベントのアートワークの準備をされていました。活動がちゃんと仕事にもつながっているようで素晴らしいですね~。



スラバヤのテクノロジー番長

http://waft-lab.com/

https://www.facebook.com/groups/320915194716040/?fref=ts

おっ次は、インドネシアの首都ジャカルタにぶっこみます。

ぽにょ!、Ongoingでは明日の3月15日(水)~3月16日(日)まで、Ongoingで生まれた"まぜたら危険!!クソやばユニット"こと、<u>柴田祐輔 & 山本篤による「柴田・山本のはじめてのフェブラリー」</u>がいよいよ開幕。またあの二人のハッチャケが見れるだなんだ。日本の皆さん、いいなぁー。うらやますいーっす。

ツイート シェア 0
- <u>11:41</u> <u>comments(0)</u> -
コメント
コメントする
name: email: url: comments:
コメント送信 Cookieに登録

(C) 2017 <u>ブログ JUGEM</u> Some Rights Reserved.

<u>▲このページの先頭へ</u>